

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

| | |
|----------|--|
| レジメン名 | ムンデシンカプセル |
| 診療科名 | 血液・腫瘍内科 |
| 診療科責任者名 | 末永孝生 |
| 適応がん種 | 再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫 |
| 保険適応外の使用 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |

| がん治療ワーキンググループ使用欄 | |
|------------------|----------------------|
| 登録番号 | PTCL-1 |
| 登録日・更新日 | 2017年8月22日 |
| 削除日 | |
| 出典 | ムンデシン添付文書 審議結果報告書 |
| 入力者 | 伊勢崎竜也 |

投与順に記入(抗がん剤のみ)

| | 薬剤名 | 規格 | 投与量算出式 | ルート | 投与時間 | 施行日 |
|------|-----------|-------|------------------|--|------|-----|
| No.1 | ムンデシンカプセル | 100mg | 300mg/回(600mg/日) | <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(内服) | 2回/日 | 連日 |
| | | | | | | |

| | |
|------------|---|
| 1コースの期間 | 設定無し |
| 投与間隔の短縮規定 | <input type="checkbox"/> 短縮可能() ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能 |
| 計算後の投与量上限値 | - |
| 計算後の投与量下限値 | - |
| 減量・中止基準 | <p>【休薬・投与再開基準】</p> <p>① 本薬投与後、以下の副作用が発現した場合には、本薬投与を休薬し、患者の状態に応じて適切な処置を行う。休薬期間は最大2週間とし、本薬投与を再開できない場合には投与を中止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Grade 3 又は 4 の非血液毒性(未処置の悪心、嘔吐および下痢は除く) ・ 7日間以上継続する 500/mm³ 未満の好中球数減少 ・ 7日間以上継続する 25,000/mm³ 未満の血小板数減少(血小板輸血を実施した場合も含む) <p>② 上記①の副作用の回復後、本薬投与を再開する場合には、用量は 200 mg/回 1日2回 とし、以後の増量は認めない。</p> <p>③ 本薬 200 mg/回 1日2回 投与時に上記①の副作用が発現した場合には投与を中止する。</p> <p>*Ccr<30mL/minの腎機能障害患者に対しては本薬の1回投与量を200mgに減量することを考慮する</p> |
| 前投薬 | なし |
| その他の注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング時検査でHBs抗体またはHBe抗体が陽性で、かつHBV DNA定量検査が検出感度未満の患者は、28日ごとにHBV DNA定量検査を行うこと。 ・HBV DNA定量検査が検出感度以上となった時点で、HBV再活性化予防のため核酸アナログを投与する。 ・医師の判断で、ST合剤や抗ヘルペスウイルス薬等の併用が可能。 |

| | |
|-----|-------|
| 記入者 | 伊勢崎竜也 |
| 確認者 | 竹内 正美 |